2.農業新技術の概要

1)水稲優良品種候補について
(1)葯培養による優良品種候補「上育394号」

上川農業試験場　水稲育種科

1.はじめに

これまでに、北海道産米の良質、良食味化は「優良米の早期開発」試験による「ゆきひかり」「ともひかり」「みちこがね」等の育成によって著しい進展をみた。また、食味特性の検定法の確立や繭培養法を含む育種年限短縮の効率化などにより、品質育種は加速的に推し進められつつある。本品種候補は、これら成果の一つである。

「上育394号」は良食味品種「しまひかり」を母、早生・耐冷性品種「キタアケ」を父とするF_1の葯を培養し育成した純系の中から選定された良食味系統である。この「上育394号」は昭和56年春葯置床以来、6年の短期間で育成され、北海道の奨励品種として採用されると、稲では日本初の葯培養による実用品種の誕生となる。

2.特性の概要

「上育394号」の稈長はほぼ「マツマエ」並、穂数も「マツマエ」並の偏穂数型であり草姿は良い。出穂期、成熟期はともに「マツマエ」とほぼ同じで、晩生の中に属し、「巴まさり」　(晩生の晩)より早い。耐冷性は「マツマエ」並のやや強で、「巴まさり」に勝る。いもち病耐病性は「マツマエ」並かやや勝り、「巴まさり」より強い。

耐倒伏性は「マツマエ」にはやや劣るが「巴まさり」より明らかに強い。収量は「マツマエ」並であり、「巴まさり」より多収を示す。玄米品質は「巴まさり」並であるが、食味はこれに勝り、北海道内では最も良食味である。

3.普及態度

現在、道南々部における基幹品種は「マツマエ」、「巴まさり」であり、この2品種で粳作付面積の約90%を占める。このうち「マツマエ」は各種の栽培特性に優れてはいるが、食味が劣る。一方、「巴まさり」は良食味品種であることから作付も漸増し、27%以上となっているが、耐倒伏性、収量性などの特性が劣るため大巾な増反は困難である。

このため、渡島、桧山南部および西胆振において、早生、良食味品種の導入と併せて、本系統を「マツマエ」の一部にかえて作付することにより、当該地帯の良食味米の生産に寄与しようとするものである。

表1　「上育394号」の育成地における特性概要

形質/品種名	早晩性	草型	出穂期(月・日)	成熟期(月・日)	登熟日数	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/㎡)	芒性	障害型耐冷性	耐倒伏性
上育394号	晩の中	偏穂数	8.6	9.20	45	71	15.0	600	無	ヤ強	ヤ強
マツマエ	晩の中	偏穂数	8.6	9.20	45	68	16.6	584	稀・短	ヤ強	強
巴まさり	晩の晩	穂数	8.8	9.25	48	80	17.6	746	稀・短	中～ヤ強	ヤ弱

形質/品種名	葉いもち病耐病性	種いもち病耐病性	収量(kg/a)	玄米千粒重(g)	玄米品質	検査等級	食味	アミログラム最高粘度	アミロース含量
上育394号	ヤ強～強	中～ヤ強	59.0	21.5	中上上	2中	上中	473B.U.	20.0%
マツマエ	中～ヤ強	中～ヤ強	56.6	22.8	上下中	2上	中中	439	22.6
巴まさり	ヤ弱～中	中	52.2	20.2	中上上	2下	上中	418	21.9

注)昭和59年から61年の試験結果(成苗、標肥区)による。

表2「上育394号」の食味官能試験

系統名 品種名	外観		口あたり	味	粘り	軟らかさ	総合評価	試食人数	備考
	白さ	光沢							
上育394号	+0.92	+0.69	+0.85	+0.78	+0.62	+0.38	+0.92	13	基準、巴まさり 昭61、上川農試 産米
しまひかり	+0.54	+0.31	+0.58	+0.33	-0.08	+0.15	+0.38		
ゆきひかり	+0.38	+0.23	+0.62	+0.22	+0.15	+0.38	+0.46		
上育394号	+0.47	+0.33	+0.33	+0.20	+0.33	+0.14	+0.33	15	基準、ゆきひかり 昭61、上川農試 産米
巴まさり	+0.07	+0.07	-0.33	-0.40	-0.13	+0.36	-0.40		
しまひかり	+0.33	+0.13	+0.20	+0.30	+0.20	+0.14	+0.20		
上育394号	+0.47	+0.47	+0.87	+0.50	+0.87	+0.27	+0.80	15	基準、巴まさり 昭61、道南農試 産米
マツマエ	-0.07	-0.27	-1.13	-1.00	-1.07	-1.13	-1.20		
しまひかり	+0.33	+0.33	+0.40	0	+0.60	+0.27	+0.40		

目次へ戻る